

## 第5回わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会

### 議事概要

日時：2025年（令和7年）2月4日（火）14：10～16：30

場所：桐生商工会議所 ケービックホール

群馬県桐生市錦町三丁目 1-25 ※Zoom 併用のハイブリッド開催

#### 1 開 会

#### 2 会長あいさつ

#### 3 委員の紹介

#### 4 議 題

- (1) 今年度実施アンケート調査結果の概要について
- (2) 経営連絡分科会協議結果の報告について
- (3) 令和6年度協議会予算の変更について
- (4) 令和7年度協議会事業計画（案）について
- (5) 令和7年度協議会予算（案）について
- (6) 今後のスケジュール について
- (7) その他

#### 5 その他

#### 6 閉 会

#### 【配布資料】

- |       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| 資料0   | 議事次第                                  |
| 資料1-1 | 第5回わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会 出席者名簿    |
| 資料1-2 | 第5回わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会 配席図の     |
| 資料2   | 第4回わたらせ渓谷鐵道沿線地域交通リ・デザイン推進協議会議事概要      |
| 資料3   | 今年度実施アンケート調査結果の概要                     |
| 資料4   | 経営連絡分科会協議結果の取りまとめ                     |
| 資料5   | 令和6年度わたらせ渓谷鐵道沿線地域リ・デザイン推進協議会予算の変更について |
| 資料6   | 令和7年度わたらせ渓谷鐵道沿線地域リ・デザイン推進協議会事業計画（案）   |
| 資料7   | 令和7年度わたらせ渓谷鐵道沿線地域リ・デザイン推進協議会収支予算（案）   |
| 資料8   | 今後のスケジュール                             |

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 委員の紹介
4. 議 事

(1) 今年度実施アンケート調査結果の概要について

<事務局より資料3に基づき説明>

《意見等》

【品川委員（わたらせ渓谷鐵道）】

- ・ 高校生アンケートの結果を見て感動している。P. 8 では高校生でもしっかりとわ鐵の価値を実感してくれていることが分かり、P. 11 でも「特にできることはない」という回答に目が行きがちだが、その他を見ると、二割の高校生はわ鐵のために色々してくれようとしていることが分かる。
- ・ 将来的には自動車利用が減っていき、公共交通の利用が増えると考えられるが、この高校生が今と同じく鉄道、公共交通を守らなきゃいけないという考えを持ったまま大人になってくれると良い。
- ・ こういった考えを持つ高校生がいる、このことを根底に持ったうえで今後の議論をしていただきたい。

【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 割合として見ると少ないが、数として見れば可能性があるのではないかと、とのご指摘だったかと思う。
- ・ 地元企業アンケートでも同じような傾向があり、P. 38 ではわ鐵との事業連携について「大いにある」が11社、「検討の余地がある」が55社見られるなど、わ鐵との連携が広がる可能性があると言える。
- ・ 高校生アンケートでは、P. 12 でわ鐵を通学で使っている生徒の回答は、他の回答に比べて「卒業後も引き続きわ鐵を使い続ける」という割合が高い。愛着を持っていると使い続けてもらえる可能性があることが今後のヒントとなる。
- ・ P. 13 では、利用者増に効果的な施策として、「きれいなトイレの整備」が「運賃の値下げ」と同等のインパクトとなっている。高校生がしっかりと考えて答えてくれたことを表している。

【櫻井委員（大間々高校PTA）】

- ・ 「きれいなトイレの整備」が多く回答されている点について、今の子供たちはウォシュレット世代であり、外出先などでもウォシュレットがなければ出てきてしまうこともある。的を射ている結果と思う。

【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 高校生アンケート、地元企業アンケートでも、わ鐵に協力するという人が一定数いることが分かった。今後、それをどう施策に繋げていくかが重要である。

(2) 経営連絡分科会競技結果の報告について

<青木委員より資料4に基づき説明>

## 《意見等》

### 【品川委員（わたらせ渓谷鐵道）】

- ・ 引き続き支援をいただき、自治体も一緒に考えていただける点についてありがたく思う。
- ・ ④の執行・経営への参画について、わ鐵は第三セクターであり、自治体と一緒に経営している会社である。再生協議会という組織があり、自治体とともに再建計画を作成し、それに基づき今後の経営、運営を検討してきた。また、活性化に関しては連絡協議会もある。他の2鉄とは異なり、これまでも群馬県、沿線市と密に連携しながら経営してきたと思っている。
- ・ しかし、②の投資的な追加補助をいただけるのであれば、更に関係を密にして連携していきたい。
- ・ これまでも地域と連携して、沿線地域を盛り上げようと色々取り組んできたが、ホットランド、オープンハウス、古河機械金属など沿線の民間事業者も盛り上げてくれている。⑤の自治体による政策推進は、今後、沿線自治体でこれらの受け皿づくりに積極的になってもらえるということだと理解しており、心強く思っている。

### 【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 鉄道を用いた沿線地域のポテンシャル向上について、沿線で色々な取組が行われている中で自治体がどう関わってくるかが重要。具体的な方策については今後、地域公共交通計画の中で検討していく。
- ・ 第三セクターということで、再生協議会において既に自治体と連携しているという意見だったが、④の論点について確認したい。

### ⇒【田中委員（群馬県）】

- ・ 群馬県も密接に連携しながら取り組んできた。一方で再生協議会の機能が現状では不十分ではないかというところがある。経営は日々状況が変化する中で、現在の後追いのチェック、監査だけでは上手くいかないこともあり、自治体も一緒に経営に参画できる体制が必要だと考えている。今後は、より前向きでダイナミックな取組が求められると考えている。
- ・ トロッキョ列車のダイナミックプライシングの導入、インバウンドの対応など、沿線の活性化のためにまだやれることはあると考えており、県だけでなく、経営の専門家など、知見を持った方の意見も伺いながら進めていきたい。

### 【佐羽委員（関東運輸局地域公共交通マイスター）】

- ・ 意識醸成を促す取組を検討する際の論点として、過去、交通手段がない高校において自転車での登下校中の事故もあり、交通手段があるということは、地域のこれからの存続に大きな意味を持つ。また、地域に生活できる空間を維持するという点でも鉄道の存在は重要である。
- ・ 黒保根地域ではスクールバスも走っている。沿線でも地域として鉄道を活かしていくうえでは、交通サービスを整理して活用していくことが必要である。
- ・ 歴代のわ鐵社長の話を聞くと、補助金を受けるための事務処理が多いと聞いている。トップセールスなど社長の役割は多いので、3社共通の仕組みを考えていく中で、こういった事務処理等を含めたサポート体制をどのように構築するか検討していくべき。

【小林委員（日光市足尾地域自治会長会）】

- ・ ⑤の自治体による政策推進について、「自治体」には、行政と地域住民が含まれると思われるが、両者の割合はどの程度になるか。足尾地域では高齢化が6割と進んでおり、地域住民としてどこまでサポートできるか不安な点がある。
- ・ 企業アンケートで回答者の3割が負担会支払いに賛同しているが、回答していない人の意向もあると思われる。どのような負担が考えられるか教えてもらいたい。

⇒【事務局】

- ・ 「自治体」とは行政をイメージしているが、行政だけではできない取組については地域の皆さんにもお願いすることもあるかもしれない。

⇒【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 地域として、わ鐵に乗ってもらったりするなど関われることはあると思われる。具体的な方策については、今後計画策定をしていく中で議論していきたい。

⇒【小林委員（日光市足尾地域自治会長会）】

- ・ 地域としても、イルミネーションなど協力をしていることもある。こういった取り組みについても、大変だという話を聞いている。

■議論のまとめ

【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 基本方針の一番の目的は、沿線の価値の最大化を、わ鐵を活かして考えていくということ。
- ・ 方向性としては、従来どおり、わたらせ渓谷鐵道を全線鉄道として存続させ、第三セクターという形で引き続き継続をしていく。
- ・ ただしそれだけでは従来と何も変わらないため、新たに投資的な追加補助を行い、鉄道の価値を最大化させていくという命題に向けて、①から⑤の方針を位置付けることが確認された。
- ・ 出された意見の中では、チェック、監査という形だけの関わりではなく、わ鐵にお任せせずに自治体も積極的にサポートしていくことが確認された。
- ・ また今後の検討材料として、地域の方々とどう関わっていくのか、またそれをどう伝えていくのか検討していくということが挙げられた。
- ・ これらを議事録として残した上で、こちらを協議会の基本方針として決定するということについて、決議を採らせていただく。

<全会一致で賛成>

（3）令和6年度協議会予算の変更について

<事務局より資料5に基づき説明>

《意見等》特になし

全会一致で可決。

（4）令和7年度協議会事業計画（案）について

<事務局より資料6に基づき説明>

## 《意見等》

### 【岩波委員（桐生商工会議所）】

- ・ 会報の発行とあるが、どのような方法での周知を想定しているのか。沿線住民としては、協議会の内容に関心が高いため、このような議論をしているということがわかるとよい。  
⇒【事務局】
- ・ 今年度は配布方法の調整がつかず実現していないが、来年度は実施したいと考えている。調整がつけば次回の協議会で原案を出したい。

### 【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 群馬県のホームページには協議会の情報が掲載されているが、沿線住民や鉄道利用者にも広めていただきたい。駅や車内もポイントになるかと思う。沿線市において利用促進に関して広報をしていることはあるか。  
⇒【田島委員（桐生市）】
- ・ 定期的に利用促進に関する広報は行っていないが、バスの見直し等があった際には広報誌へ掲載している。  
⇒【青木委員（みどり市）】
- ・ 同じく定期的な発行はしていないが、イルミネーション号の運行など必要に応じて案内を出している。

### 【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 駅や車内、今回のアンケート結果を踏まえると高校もターゲットになるかもしれない。会報の発行については、委員の意見ももらいながら進めていきたい。

### 【櫻井委員（大間々高校PTA）】

- ・ 地域で活動していく中では、地元のマスコミなどが取材してくれたりすることもある。  
⇒【事務局】
- ・ マスコミに取り上げてもらうことについて努力はしつつも、住民向けの会報による周知も重要だと考えており、両面から周知活動に取り組みたい。  
⇒【櫻井委員（大間々高校PTA）】
- ・ PTA会長になるまで、このような協議会が行われていることは知らなかった。一般の市民もこういった議論が行われていることは知らないと思われ、まだ危機感を持っていないと思われる。会報が発行されることによって沿線住民の意識が高まるのではないかとと思われる。

### 【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ メディアに継続的に取り上げてもらうことは効果がある。マスコミの方には鉄道として存続するというだけでなく、今後協議会においてわ鐵を活かして地域を良くするための議論を行っているところも引き続き見ていただければと思う。

全会一致で可決。

(5) 令和7年度協議会予算(案)について

<事務局より資料7に基づき説明>

《意見等》特になし

全会一致で可決。

(6) 今後のスケジュールについて

<事務局より資料8に基づき説明>

《意見等》特になし

## 5. その他

【岡本委員(わたらせ渓谷鐵道市民協議会)】

- 今日の資料は公開されるのか。  
⇒【事務局】
- 議事録とともに群馬県のホームページに資料のPDFを公開する予定である。

【吉田会長(福島大学/前橋工科大学)】

- 協議会の内容は栃木県のホームページでは掲載されているのか。同じものを載せることは難しいかもしれないが、協議会に関する情報やリンクを貼ることはできるか。  
⇒【高橋委員代理(栃木県)】
- 現在は情報の掲載はしていない。内部で検討させていただきたい。

【岩波委員(桐生商工会議所)】

- インバウンド観光客に関するアンケート結果を見ると、日光で行ったヒアリングではあるものの、わ鐵を知っていると回答した人は乗りたいと思っており、知ってもらうことが重要と言える。
- 日光市や観光協会のホームページにはわ鐵の情報が少ないように思われる。色々な人も目に触れるようにしてもらえると良い。まだまだ需要を伸ばせるのでは。

【仁木委員(グループ28)】

- 沿線の気分が沈みがちのところにホットランドさんが来てくれた。わ鐵沿線に対してどのような思いをお持ちかお聞かせいただきたい。

【佐瀬委員(ホットランド)】

- 4月1日に水沼駅の温泉をオープンする予定である。駅がそのまま温泉という日本でも数少ない施設となる。橋を渡ったところにはサウナの森水沼ヴィレッジという施設を完成し、50人の宿泊施設、中には4つのレストランという広大な施設となる。
- 東京方面から東武線、わたらせ渓谷鐵道で水沼まで来てもらい更に日光へというルートとその反対

のルートを目標として、積極的にPRしていきたいと考えている。そのことによって沿線の魅力を向上することが我々の仕事だと考えている。チケットレスや春・秋の利用促進など、わ鐵と一心同体という気持ちで連携して進めていきたい。4月を楽しみにしていただきたい。私は、そこから沿線全体が変わっていくのではないかと考えながら取り組んでいる。

- ・ 例えばふるさと納税などもアイデアとして有効ではないかと思われる、そういったアイデアや意見を出せる場があると良いと考えている。

#### 【品川委員（わたらせ渓谷鐵道）】

- ・ 佐瀬社長に滞在型の施設を作っていただいたこともあり、トロッコ列車の整理券をチケットレスで買えるようにした。11月に試したところ可能性は高いと考えている。
- ・ リモートワークの時代の中で、週のうち数日は沿線に滞在したり、住んだりしてはどうかというアンケートを行ったが、1,000人くらいの回答者の中で可能性があるという回答も多くいただいている。ホットランドさんの施設を核にしなが、滞在、交流という方向についても貢献していきたいと考えている。

#### 【吉田会長（福島大学／前橋工科大学）】

- ・ 佐瀬社長の意見にあったアイデアを出せる場がまさにこの協議会だと思う。沿線のポテンシャル向上にも繋がってくる話であり、色々な人がわ鐵を通して地域をどう良くするかが重要である。この協議会を有効に使っていただきたい。

#### ■協議会全体のまとめ

- ・ 本日の協議会では、大きなところとして、資料4にあった基本方針について議論を行った。その中で、体制に関する具体像や地域住民とのコミュニケーション、会報の発行や栃木県のホームページでの情報公開、生活できる空間づくりといった色々なアイデアをいただいた。
- ・ これらを素材として来年度は地域公共交通計画の策定に向けて、具体的に何ができるか皆さんと一緒に考えていくというフェーズに移っていく。引き続き皆さまのご協力を賜りたい。

## 6. 閉会

以上